



渕水だより

No. 9

10月24日に開催した学習発表会では、大変多くの保護者、ご家族の方々にお集まりいただきました。また会の中では、盛大な拍手と手拍子等、子供たちを応援してくださいました。子供たちはどれだけ励まされたことでしょうか。本当にありがとうございました。

さて、今回の渕水だよりでは、学習発表会の表舞台では見えにくい子供たちの成長の姿をわずかではありますが、紹介したいと思います。

発表会を自分たちの力で実現しようとする

今回2年生は約半年間の取組を生かした発表をしました。フラフープの演技もすばらしいものでしたが、舞台裏で私は2年生の内面的な成長を見付けることができました。



前の学年の発表が終わると子供たちは発表の準備を舞台裏で行っていました。跳び箱や平均台等、大きく重い物の準備もありました。やや小柄なH君も台を運ぼうとしていたのですが、前方に邪魔な荷物があり困っていました。思わず私はその荷物をよけました。するとH君が「ありがとうございます」という言葉を私に掛けてくれました。その様子を見ていた他の2年生までもが、感謝の言葉を述べてくれました。私は、教師に甘えず、この発表会を自分たちの手でやり遂げるのだという2年生の強い意思を感じました。発表を終えた2年生の子供たちは、ほっとする間もなく、片付けに黙々と取り組んでいました。自立の芽が伸びつつある2年生だと感じました。

観てくれる人に何かを伝える…努力は報われる

発表会の1週間前、3年生の子供たちは跳び箱やよさこいの演技をうまく行うことができませんでした。ところが24日の本番では多くの子供たちが思い切った踏切で上手に跳び箱を跳んでいました。よさこいでは、どの子供も力強い演技と掛け声を表現していました。子供たちは、本学習発表会のテーマである「示す 伝える」について考え、観てくれる人を意識することで、取り組む姿勢が変わってきたように思います。A君やTさん、Sさんは家に帰って毎日のように練習していたと聞きました。最高の演技を本番で見せることができ、多くの方々に認めてもらえることで、子供たちは努力する大切さや、やればできる自分であることを実感できたのではないかと思います。



実直に取り組み、振り返り、自分の可能性に気付く

下校時、Tさんが泣いていました。お母様はやさしく抱き寄せ、その姿をお父様が見守っていました。素敵な家庭だと思いました。

さてTさんの涙の事情を聴くとどうも本番で自分の力を発揮できなかったということでした。練習を通して自分の力を知り、本番ではそれだけの力を出せる自分であると信じていたからこそ、余計に悔しい思いが沸き上がってきたのでしょう。本番に向けて実直に取り組んできたTさんだからこそ、自分のよさとこれからの課題、自分の伸びしろを実感できたのではないかと思います。

紹介した子供たちのように、他の子供たちも自分の可能性に気付くことができた学習発表会だったのではないのでしょうか。今後子供たちがどのように成長していくのかが楽しみです。

高野 力郎